

図書館だよい

令和3年(2021年)冬 No. 348

中区図書館は、開館30周年を迎えます

平成3年(1991年)1月26日、中区図書館は、アステールプラザ(現JMSアステールプラザ)の2階に誕生しました。

「アステール」はギリシャ語で「星」という意味です。建物内にはホールやギャラリー、会議室、音楽室、研修施設などがあり、「様々な文化の星がきらめく場所」をコンセプトにしています。

その中で、中区図書館は、芸術関連と国際理解に関する情報発信を特色としており、資料収集や行事の開催などにより、美術、芸能や国際交流等に親しめる機会を多数提供しています。



オープン前日のカウンターの様子



開館準備中の様子。現在と見比べてみてください。

中区図書館はこれからも、様々な情報発信や、皆様にお楽しみいただける行事の開催等に取り組んでいきます。皆様の笑顔が輝く場所となるよう努めてまいりますので、ぜひご来館ください。

安芸区図書館は、開館20周年を迎えます

平成13年(2001年)3月17日、安芸区図書館は安芸区民文化センターと併設開館し、おかげさまで今年満20年を迎えます。

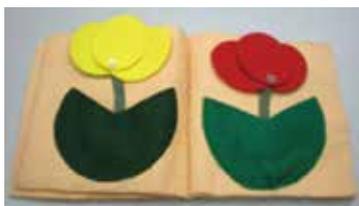
当館は広島市東部の読書サービスの拠点施設として、広島市だけでなく、海田町、府中町、東広島市といった周辺市町の方々にもご利用いただいています。そして、本の貸出のほか、読書をより身近に感じていただくため、本の月別テーマ展示、おはなし会、各種講座等、広範な事業を展開しています。また、2月から3月にかけては、20周年を記念して、郷土史講座「野原山城跡の調査」や20年の歴史を振り返る特別展示を開催します。



開館当時の様子

(安芸区図書館の特色事業)

- ボランティアグループの皆さんに作っていただいた2種類の絵本を提供しています。
 - ・ 布の絵本・・・布地に絵をとめたり、動かしたりして遊べる絵本です。
 - ・ 点訳絵本・・・点字シート付きの絵本で、長く読み継がれてきた作品を中心に揃えています。
- 外国語を母国語とする方々のために、ポルトガル語、スペイン語の本を充実させています。



布の絵本

松島 恵利子／著
汐文社 2019年

足の不自由なルワンダ人のパートナーを助けようと、義肢装具士の修業を始めたルダシングワ真美さん。1994年に起きたルワンダ大虐殺により、手や足を失った人が町にあふれている現状を目の当たりにし、現地での支援を決意します。

義肢製作所を立ち上げ、義足を配付する活動を始めますが、長い紛争や大虐殺の傷跡が残る現地での活動は困難の連続でした。しかし真美さんは、パートナーと二人三脚であきらめずさまざまな挑戦を続けます。

ルワンダの人々の心に寄り添いながら、未来へと歩みだす手助けをする日本人女性の姿を伝えます。

葉田 甲太／著
あさ出版 2019年

医大生だった著者が仲間と協力し2006年にカンボジアに小学校を立てた経緯を綴り、映画化もされた本『僕たちは世界を変えることができない。』の続編。

「でも、僕には何もできないしなー」。それは、支援を続けて8年目、現地で生後間もない赤ちゃんを亡くし泣いている母親の姿を見たときに、思わず浮かんだ言葉でした。もう頑張った、無力な自分が支援する必要はないと思う一方、行き届いていない医療を見過ごすこともできず悩みながらも、再びカンボジ

編集・発行

Hiroshima City Central Library
広島市立中央図書館
(公益財団法人 広島市文化財団)
〒730-0011 広島市中区基町3番1号
<http://www.library.city.hiroshima.jp/>

代 表 082(222)5542
本の照会・相談専用 082(222)6440
F A X 082(222)5545
(携帯電話 <http://www.library.city.hiroshima.jp/m/>)
(スマートフォン <http://www.library.city.hiroshima.jp/sp/>)